

ロマン諸語における語の有縁性と比喩表現について (5)

— ロマン諸語（フランス語、イタリア語、ルーマニア語、スペイン語、ポルトガル語）と日本語の故事・諺・成句にみられる楽器名による比喩表現を中心として —

小 倉 博 史

〈Résumé〉

Comme verbe qui joue des instruments de musique, en français **jouer**, en roumain **juca** qui joue aux instruments de musique, en italien **sonare** qui sonne des instruments de musique, en espagnol et en portugais **tocar** qui touche aux instruments de musique. Quant au violon, en français celui qui tient seconds violons signifie le second rôle, parce qu'il est assis là où les spectateurs ne voient pas bien. Mais en italien, celui qui tient primo violino est assis là où les spectateurs voient bien et peut voir tous les membres de l'orchestre et tenir le chef du concert. En français et en espagnol, le violon d'Ingre, peintre français jouait bien du violon. Quant à la contrebasse, elle sonne l'instrument le plus bas à cordes. En français et en italien, elle signifie la voix basse et elle signifie ronfler fort, ce sera à cause de la similitude des sons. Il n'y en a ni en roumain, ni en espagnol, ni en portugais. Quant à la guitare, le flamenco, chant et danse folkloriques sont composés du chant, de la danse et de l'exécution. L'exécution est la guitare de flamenco. C'est pour ça les expressions de la guitare se trouvent seulement en espagnol. Quant à la flûte en français de sa forme, la métonymie de la longue jambe, «jouer des flûtes» signifie s'enfuir, «être du bois dont on fait des flûtes» signifie extrêmement complaisant. Parce que la matière des arbres est apte à faire la flûte. Quant à la trompette, en français et en italien, «sonner de la trompette» signifie claironner, parce qu'elle sonne sa hauteur. Quant à la trombone, «Quell'oratore è un trombone» signifie un grand menteur en italien parce qu'elle sonne quelquefois fort. Quant au tambour, «avoir un ventre comme un tambour» en français et en italien signifie avoir du ventre en mangeant trop. «tambour battant» en français, en italien et en espagnol, signifie énergiquement, rapidement. Cette locution est d'origine militaire, «raisonner comme un tambour» en français, c'est par jeu sur l'homophone raisonner/ résonner. Elle signifie raisonner mal, tout en résonnant fort bien. L'Europe a une longue tradition musicale très variée: de nombreux instruments différents sont au service des compositeurs et musiciens. On retrouve donc beaucoup plus de locutions, dictons, proverbes comportant le nom d'instruments de musique dans les langues romanes excepté en roumain que dans le japonais. Les expressions en roumain sont très peu. Ce serait à cause du long régime socialiste.

0. はじめに

風の音、水の音、木の葉がすれあう音など自然界に満ちている音を模倣しようとして人間は自分の手や口などの身体器官を使って自然の発音現象を意識的に作り出すことを考えた。こうして楽器は生まれたのである。《打つ》という動作は《声を出す》ことに次いで古い、人間が行ってきた発音行為である。というのは、人間は特別なものを持っていなくても自分の身体を楽器として《打つ》ことができるからである。次いで口笛や指笛などのように《吹く》という動作によって発音できる。音を出すためには《はじく》、《こする》という動作も大切である。そこで、本稿ではロマン諸語と日本語の故事・諺・成句に見られる楽器名の語彙による比喩表現を比較し、日本と西洋諸国の楽器と人間との関わりについて考察するとともにロマン諸語間の比較を通して共通点および相違点を明らかにする。

1. フランスでの器楽曲のはじまり

「16世紀の最後の三分の一の時期に、急にフランス音楽の方向を変えた原因のひとつとして、さまざまな楽器が社会生活に決定的な役割を持つようになったことを無視することはできない。(中略) 12世紀以来フランスにおいて、事実上声楽が支配的であったためである。フランスよりも早く器楽技術を開拓していた他の国々との触れ合いを通じて、フランスの芸術家たちは、この新しい表現形式に興味を示し、クラヴィコード、オルガン、リュート、金管楽器、やがて弦楽器を完成した技巧で《鳴らし》た。アンリ二世の治下(1547~59年)に様々な楽器が存在していたことは、ひとつの変動の帰結であったように思われる。(中略) 中世前期にはまず、人声の普通の音階が出せる高貴な楽器(ヴィエール、ハープ、ギター、リュート)と高貴でない楽器(金管楽器)とが区別されていたようである。のちになると、高い楽器、すなわち、屋外の祭典に好んで用いられる鳴り響く楽器(トランペット、トロンボーン、ドゥルツィアン、オーボエ)と、室内や教会のより親密な演奏に用いられる低い楽器(フルート、フラジョレット [縦笛の一種]、ハープ、ヴィオール、オルガン)との区別が行われた。17世紀の前半にはまた、リュート、クラヴサン [ハープシコード、チェンバロ]、オルガン、ヴァイオリン用の器楽曲が生まれた。これらの音楽は、教養があり往々にして気取った階層の人たちを魅了した。かつて音楽はすべての人たちによって開拓され、16世紀の場合には、声楽と器楽が半々であったが、多数の愛好家がそれほどの技術的訓練なしに曲を演奏することができた。その音楽が、17世紀には、楽器や舞台装飾や舞台上で展開される演技に魅力を感じる特権階級の人たちの集まりだけで享受されることになったように思われる¹⁾。」

2-1. violon・ヴァイオリン<it. violone ヴィオローネ viola 「ヴィオラ」の拡大辞

楽器名	種類	表現 (用いられる動詞)	意味	転義
violon	隠喩 意見をまとめる	Accordez vos violons! [R] [S] (gratter, racler) jouer	(皆のヴァイオリンを合わせなさい→) (お互いの意見をまとめてください)	バイオリン奏者, 留置所, [海事] 食器枠, [機械] (手動式の) 小型旋盤
	隠喩 急ぎすぎる	aller plus vite que les violons [R] [S]	(ヴァイオリンよりも早く行きすぎる→) 早く行きすぎる, 急ぎすぎる	
	隠喩 どうしようもない	C'est comme si on pissait dans son violon [R]	(ヴァイオリンにおしっこをしているようなものだ→) (調和のとれた音を得ようとすれば非常識な行為である) どうしようもない	
	隠喩 得にもならないことに金をつぎこむ	payer les violons (du bal) [R] [S]	(舞踏会のヴァイオリンに支払う→) 得にもならないことに金をつぎこむ, 尻拭いをする, 美人のために舞踏会を催す	
	隠喩 脇役	seconds violins [S]	(第二番目のヴァイオリン→) 脇役	
	隠喩 余技	violon d'Ingres [R] [S]	(画家のアンゲルが玄人はだしのヴァイオリン奏者だったことから→) 芸術家の余技, 芸芸	
	直喩 がりがりの	[R] sec comme un violon	やせこけた, がりがりの	
(ital.) violino		primo violino (sonare)	(第一バイオリン (の奏者→) 腹心の協力者, 右腕)	バイオリン奏者, ハム (豚のもも肉が楽器に似ていることから)
(roum.) vioára				
(esp.) violín	隠喩 無料で	de violín (tocar)	(バイオリンで→) 無料で	[ラ米] 口臭
	隠喩 しっぽを巻く	embolsar el violín/ meter violín en bolsa	(バイオリンを袋に入れる→) しっぽを巻く, すぐごと引き下がる	

	隠喩 趣味	violin de Ingres	(アングルのバイオリン →) 趣味, 道楽	
(port.) violino		(tocar)		バイオリン奏 者

2-2. violon・ヴァイオリンによる比喩表現の要因

	特性 (直喩)	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計	R	S
フランス語	1 (R)1		4	1	6	R)6	S)5
イタリア語	1				1		
ルーマニア語					0		
スペイン語			2	1	3		
ポルトガル語					0		

フランス語では第2ヴァイオリンは脇役, イタリア語では第1ヴァイオリンは右腕の意はオーケストラにおけるそれぞれの役割からの発想は同じであろう。フランス語とスペイン語ではフランスの画家アングルが玄人はだしのヴァイオリン奏者であったことから芸術家の余技, フランス語だけにみられるものとしては, ヴァイオリンを合わせることから意見を一致させるの意, オーケストラ全体をリードするヴァイオリンよりも早く進むことから急ぎすぎるの意, ロシアの作曲家ハチャトゥリアンの仮面舞踏会のヴァイオリンのための協奏曲にあるように舞踏会とヴァイオリンとの関係から舞踏会のヴァイオリンに支払うことから得にもならないことに金をつぎこむの意, スペイン語ではヴァイオリンを袋に入れる様子からすずすずと引き下がるの意, ルーマニア語とポルトガル語には例はみられない。

3-1. contrebasse・コントラバス < contre-, basse

楽器名	種類	表現	意味	転義
contre- basse	パートを受け持つ	tenir la contrebasse dans un orchestre	オーケストラでコントラバスのパートを受け持つ	(ポピュラー音楽で) アコースティックベース, コントラバス奏者
	低い声	R) maugréer en contrebasse	低い声でぶつぶつ言う	

(ital.) contra- basso	隠喩 低い声	voce di contrabasso	(コントラバスの声→) とても低い声	
	直喩 大いびきをか かく	russare come un contrabas- so	(コントラバスのように いびきをかか→) 大いび きをかか	
(roum.) contra- bás				
(esp.) contra- bajo				コントラバス 奏者, [声楽] 低音, 低音歌 手
(port.) contra- baixo				最低音域の歌 手, コントラ バス奏者

3-2. contrebasse・コントラバスによる比喩表現の要因

	特性 (直喩)	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計	R	S
フランス語	1 (R)1		(R)1		1	(R)1	
イタリア語			1		1		
ルーマニア語					0		
スペイン語					0		
ポルトガル語					0		

コントラバスは弦楽器のなかで最も大きくて、音が一番低いことから、フランス語とイタリア語では低い声の意、イタリア語では直喩で大いびきをかかきの意。ルーマニア語、スペイン語、ポルトガル語にはみられない。

4. harpe・ハーブ < lat. harpa ← germ. Xarpon

5-1. guitare・ギター < esp. guitarra ← arab. gitar ← grec kithára

楽器名	種類	表現	意味	転義
guitare		(jouer)		(ギターに類似した) 弦楽器: マンドリン, バンジョーなど, ギター音楽, ギタリスト, 退屈な繰り返し
(ital.) chitarra		(suonare)		
(roum.) chitára				
(esp.) guitarra	隠喩 計画をぶち壊す	chafar la guitarra a (+uno) (tocar)	(人のギターを押しつぶす→) 人の計画をぶち壊す	石膏破砕器, 晴れ着,
	隠喩 油断のならない	ser buena guitarra	(良いギターである→) 油断のならない人である	
	直喩 見当違いである	ser como guitarra en un entierro	(葬儀でのギターのようにある→) 見当違いである, 場違いである	
	隠喩 機嫌	tener bien [mal] templada la guitarra	(バランスの良い [悪い] ギターを持っている→) 機嫌が良い [悪い]	
(port.) guitarra		(tocar)		

5-2. guitare・ギターによる比喩表現の要因

	特性	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計
フランス語					0
イタリア語					0
ルーマニア語					0
スペイン語			4		4
ポルトガル語					0

スペイン語では民族舞踊のフラメンコとギターとの関係から唯一表現がある。バランスの良い

(悪い) ギターを持っているから期限の善し悪しを表す。葬儀のギターから場違いであるの意などである。

6. リュート < a.p. latz ← arab. al-ud ← 定冠詞 al + ud 「木」

「リュートは優雅さと愛の象徴として、人声の伴奏をし、ポリフォニック²⁾なシャンソンを編曲して演奏し、舞踊のリズムを与えた。(中略) 1660~70年ごろ、リュートはクラヴサンの前に消滅した³⁾。」

楽器名	種類	表現	意味	転義
luth				
(ital.) liuto				
(roum.) laúta				
(esp.) laúd				(地中海の) 1本マストの 小型帆船, [動物] オサ ガメ (長亀)
(port.) alaúde				

7-1. flûte・フルート < 擬音語語幹 a-u 「管に息を通して出る音」を表す : lat. flare 「息を吹く」 の影響

楽器名	種類	表現 (用いられる動詞)	意味	転義
flûte	隠喩 調子を合わせる	accorder ses flutes (jouer)	(フルートを合わせる →) 人と調子を合わせる	フルート奏者, [パン] (細長い形をした) フリユート, ~à champagne フリユート型 シャンパンダ ラス, [スイ ス] フリユ ート : 塩味の ビスケット
	諺	Ce qui vient de la flûte s'en retourne [s'en va] au [par le] tambour	(笛から来たものは太鼓 で帰る→) 得たものや金 は (得たときと) 同じよ うにして失う	
	隠喩 愛想がよい	être du bois dont on fait les flûtes	(楽器を作るのに使う柔 らかい木である→) 非常 に愛想がよい, 気がいい, 人の言いなりになる	

	隠喩 逃げ出す	jouer [se tirer] des flûtes (se tirer=s'en fuir, s'en aller, flûte は「長い足」の意)	(長い足で立ち去る→) 一目散に逃げ出す, さっ さとずらかる	
(ital.) flauto		(suonare)		
(roum.) flaut				横笛
(esp.) flauta	隠喩 思うようには はいかない	Quando pitos, flautas, cuan- do flautas, pitos	(呼び笛のときに, フ ルート。フルートのとき に, 呼び笛→) 物事は 我々の望むようにはい かないものだ	フルート奏者
	隠喩 あれやこれ やの理由で	entre pitos y flautas	(呼び笛とフルートの間 で→) あれやこれやの理 由で	
	隠喩 これは驚い た	La gran flauta! Por la flauta!	(大きなフルート! フ ルートのために!→) こ れは驚いた	
	隠喩 なんて運が いいんだ	Y sonó la flauta (por casualidad)	(偶然にもフルートがあ る→) なんて運がいいん だ	
(port.) flauta	隠喩 本気にしな い	levar na flauta (tocar)	(フルートを持って行く →) 本気にしない, から かう	横笛, [ブラ ジル] 放浪 (生活), あざ けり, フル ート奏者

7-2. flûte・フルートによる比喩表現の要因

	特性	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計
フランス語		1	3		4
イタリア語					0
ルーマニア語					0
スペイン語			4		4
ポルトガル語			1		1

フランス語ではフルートの形状から長い足で立ち去るから一目散に逃げ出すの意, フルートを合わせるから調子を合わせるの意, フルートを作るのに都合のいい木から人の言いなりになるの意。スペイン語では, 呼び笛とフルートの音色の類似からあれやこれやの理由での意や思うよう

にはいかないものだの意。ポルトガル語では、転義であざけりを表すことから、フルートを持って行くからからかうの意。

8-1. trompette・トランペット < franc. trumpa ← 擬音語

「トランペットはファンファーレで楽器のアンサンブルを支える⁴⁾。」

楽器名	種類	表現 (用いられる動詞)	意味	転義
trompette	隠喩 金棒引き	C'est la trompette de quartier (sonner, jouer)	(あの人は地域のトランペットだ→) あの人は金棒引きだ	[貝類] ほらがい, [鳥類] oiseau ~ ラッパチヨウ
	隠喩 もったいをつける	entonner [enboucher] la trompette [R] [S]	(トランペットを樽に詰める→) もったいをつける, 荘重な調子になる	
	隠喩 上を向いた鼻	nez en trompette [R] [S]	(形状の特徴から→) 上を向いた鼻	
	隠喩 名声	la trompette de la Renommée	(世論の女神のラッパ→) 名声	
	隠喩 こっそり	sans tambour ni trompette [R] [S]	(トランペットも太鼓もなく→) (太鼓とトランペットは一般に軍事動作を伴っていたから) こっそりと, ひそかに	
	隠喩 吹聴する	sonner de la trompette [R] [S]	(トランペットを吹く→) 自分のことを吹聴して回る	
(ital.) trómba	隠喩 吹聴する	sonare la trómba	(トランペットを吹く→) 吹聴する, いびきをかく	トランペット奏者, 言い触らす人, (車の) クラクション, らっぱ状のもの
	隠喩 手ぶらで帰ってくる	tornare [venire] con le trombe nel sacco	(袋にトランペットを入れて帰る [来る] →) 手ぶらで帰って来る, 何も決めずに帰って来る	
	隠喩 失敗する	rimanere nella trómba	(トランペットの中にとどまる→) 失敗する	
	隠喩 落選する	restare in trómba	(トランペットの中にとどまる→) 落選する	
	隠喩 競売する	vendere alla trómba	(トランペットで売る→) 競売する	

	隠喩 猛然とやり 出す	partire in trómba	(トランペットの中で出 発する→) 猛然とやり出 す	
	隠喩 さっさと通 り過ぎる	passare in trómba	(トランペットの中で通 り過ぎる→) さっさと通 り過ぎる, 難なく通過す る	
(esp.) trompe- ta		(tocar)		トランペット 奏者, 碌でな し, 役立たず
(port.) trombe- ta		(trombetear)		告げ口して歩 く人

8-2. trompette・トランペットによる比喩表現の要因

	特性	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計	R	S
フランス語	1		6		6	R4	S4
イタリア語			7		7		
ルーマニア語					0		
スペイン語			4		0		
ポルトガル語			1		0		

フランス語とイタリア語では, トランペットの音の大きさからトランペットを吹くから吹聴するの意で共通している。フランス語ではトランペットの形状から上を向いた鼻の意, 高い音を出す太鼓やトランペットもなくからこっそりとの意, 世論の女神のラッパから名声の意, イタリア語では, トランペットのなかにとどまるから, 失敗する, 落選するなどの意。高い音を出すトランペットで売るから競売する, トランペットの中で出発するから猛然とやり出す, トランペットの中で通り過ぎるから難なく通過するの意である。ルーマニア語, ポルトガル語には例はない。

9-1. trombone・トロンボーン < it. trombone tromba (trombe) の拡大辞

「トロンボーンは、1762年に〈コンセル・スピリチュエル〉に、1774年に〈オペラ座〉に、1794年以後には交響曲のなかに姿を現わす⁵⁾。」

楽器名	種類	表現 (用いられる動詞)	意味	転義
trombone		(jouer)		トロンボーン奏者、(文房具の)クリップ、[電波]テレビ受信アンテナ
(ital.) trombone	隠喩 はったり屋	Quell'oratore è un trombone	(あの弁士はトロンボーンだ→) あの弁士ははったり屋だ	ほら吹き、(17-18世紀ころの口径の太い)短銃、ラッパズイセン
(roum.) trombón				嘘
(esp.) trombón				トロンボーン奏者
(port.) trombone				トロンボーン奏者

9-2. trombone・トロンボーンによる比喩表現の要因

	特性	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計
フランス語					0
イタリア語			1		1
ルーマニア語					0
スペイン語			4		0
ポルトガル語			1		0

イタリア語では、トロンボーンは力強く、時には荒々しいまでの音を出すことから、転義ではら吹きの意があり、あの弁士はトロンボーンだから、はったり屋だの意。フランス語、ルーマニア語、スペイン語、ポルトガル語には例はない。

10-1. tambour・太鼓 < pers. tabir ← arab. tubul (tabl「太鼓」の複数形。-m- はアラビア語 tunbur, tanbur「弦楽器の一種」の影響か?)

楽器名	種類	表現 (用いられる動詞)	意味	転義
tambour	腹が膨れている	(battre) avoir le ventre gonflé [ten- du] comme un tambour [R]	(太鼓のように膨れている→) 食べ過ぎて腹が膨れている	太鼓, ドラム, 鼓手, [建築] ドラム, タンブール (ドームの下に据えられた円筒状の壁体)
	屁理屈をこねる	raisonner comme un tambour	(raisonner, résonner「鳴り響く」の同音異義語から) 屁理屈をこねる	
	計画を洩らす	vouloir prendre des lièvres au son du tambour	(太鼓の音で兎を捕らえようとする→) 計画を洩らす	
	堂々と	tambour battant	(軍事起源に由来し太鼓は行進や職務を意味していた→) 太鼓の音に合わせて, 堂々と, てきぱきと, 迅速に	
(it.) tamburo	直喩 膨らんでいる	avere la pancia come un tamburo	(太鼓のようにお腹がでている→) 食べ過ぎて腹が膨らんでいる	太鼓, 鼓手, ドラム状の物, (ピストルの) 弾倉
	堂々と	a tamburo battente	太鼓を鳴らして→) 堂々と	
	すぐに	sul tamburo	(太鼓の上に→) すぐに, ただちに	
(roum.) toba	塊	toba de carte	(書籍の太鼓→) 博識の塊	ドラム
(esp.) tambor	意気揚揚と	a tambor batiente	(太鼓を鳴らして→) 意気揚揚と, 勝ち誇って	鼓手, (ドーム下部の) 円筒壁体, (ピストルの) 弾倉
(port.) tambor				鼓手, (拳銃の) 弾倉, ドラム缶

10-2. tambour・太鼓の比喩表現の要因

	特性	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計
フランス語	1		3		4
イタリア語	1		2		3
ルーマニア語			1		1
スペイン語			1		1
ポルトガル語					0

フランス語とイタリア語では、直喩で太鼓のように膨れているから食べ過ぎてお腹が膨らんでいるの意で共通している。フランス語、イタリア語、スペイン語で太鼓を鳴らしてから軍事起源で堂々との意で共通している。フランス語だけにみられるものとしては *résonner* と *raisonner* 推論するの意の同音異義語から屁理屈をこねるの意。ルーマニア語では太鼓の形からのアナロジーで書籍の太鼓から博識の塊の意。

11. caisse・太鼓 < anc.prov.caissa < lat.vul.*capsea < lat.clas.capsa ← capere 取る, 保管する

楽器名	種類	表現	意味	転義
caisse	宣伝する	battre la grosse caisse	(大太鼓を鳴らす→) 鳴り物入りで宣伝する	(運搬・保管用などの) 箱

フランス語では、兵士を募集したり集めたりする隠喩で鳴り物入れで宣伝する、声を大にして言うの意。

太鼓鉦で捜す：迷い子を探すのにかねや太鼓を鳴らして捜し回ったところから→大勢で大騒ぎして方々を捜し歩く。

太鼓のような判を捺す：絶対に確実なものとして保証する。

太鼓も桴のあたりよう：太鼓の音の大小、よしあしがたたき方次第であるように、やり方次第で相手の反応もちがってくたとえ。

太鼓を打つ：他人の言うことに調子を合わせる。迎合する

太鼓の御居処：御居処は尻。太鼓の鳴る音の「ドン」と「尻」の意の「けつ」を結びつけたしゃれ。最下位、びりのことをいう。

太鼓を打てば鉦がはずれる：太古を打つほうの手に気を集中させると、反対の鉦を打つ手がそれる。同時に多くのことはできないことのとえ。

12. 琴・箏

琴しめるような挨拶：ぴんと張った固い挨拶。自分は高級だとし、相手を見下げたような態度で切り口上でする応対。

琴の緒絶ゆ：親友，知己に死別することのたとえ。

琴の音のさえるは風雨兆し：琴や鼓の音響がさえて聞こえるのは風雨の前兆である。

13. 尺八

尺八は鳴りかけたら半稽古：尺八の稽古は鳴るまでが難しく、鳴りかけたら半分できたと同じである

尺八ほど：涙やよだれなどが長くたれるさまをたとえていう。

尺八を好む者は貧乏を吹き出だす：尺八好きは貧乏になるという俗説。

14. 笛

笛は思いを口移し：笛の音はことばと同じように、拭き手の心をそのままあらわし伝えるものである。

笛吹けど踊らず：人に何かをさせるつもりでさまざまに手立てを整えて誘っても、人がそれに応じて動かないことを言う。「新約聖書マタイ伝第 11 章から」

笛を吹かずと腰に差せ舞は舞わずと扇を持て：人前で披露する機会のあるなしにかかわらずいつでも披露できるようにしておく平生のたしなみが必要だあるということ。

15. おわりに

楽器を演奏する動詞として、フランス語 *jouer*、ルーマニア語 *juca* 「遊ぶ」、スペイン語 *tocar*、ポルトガル語 *tocar* 「触れる」、イタリア語 *sonare* 「音をたてる」である。ヴァイオリンについては、フランス語で第 2 ヴァイオリンの奏者が脇役、イタリア語で第 1 ヴァイオリンの奏者が右腕というのは第 1 は客席からよく見える位置であると同時に、楽団全体をよく見える位置でコンサートマスターの役割を担い、第 2 の指揮者のような立場であることから右腕の意、第 2 は第 1 の陰に隠れるように客席から見えにくいところに位置していることから脇役の意。フランス語とスペイン語では、フランスの画家アングルが玄人はだしのヴァイオリン奏者であったことから芸術家の余技の意。コントラバスについては、弦楽器のなかで音が一番低いことからフランス語とイタリア語では低い声の意、イタリア語では音の類似からであろうか直喩で大いびきをかくの意。ルーマニア語、スペイン語、ポルトガル語にはみられない。ギターについては、スペインスペイ

ン、アンダルシア地方のジプシーの間で発達し、歌・舞踊・伴奏（ギター）の要素が一体となった民俗舞踊・音楽であるフラメンコとの関係から、唯一スペイン語だけにみられる。フルートについては、フランス語では、フルートの形状やフルートを作る木の材質から一目散に逃げ出すや人の言いなりになるの意トランペットについてはトランペットの音の大きさから、フランス語とイタリア語では、トランペットを吹くから吹聴するの意で共通している。トロンボーンについては、力強く、時には荒々しいまでの音を出すことから、イタリア語では転義でほら吹きの間がある。ヨーロッパでは器楽曲があったので楽器の種類もルーマニア語を除いて成句も豊富なのであろう。ルーマニア語の場合、社会主義体制であったと言うことが影響しているのか成句はみられない。日本の場合には器楽曲がなかったため、楽器の種類は少ない。

注

- 1) アルベール・デュフルク著、遠山一行訳（1972）：「フランス音学史」、p. 28
- 2) 二つ以上の対等の関係を持つ独立した声部によって構成される。
- 3) アルベール・デュフルク著、遠山一行訳：前掲書、pp. 205～206
- 4) 同上、p. 344
- 5) 同上、p. 344

参考文献

- 池田峯夫他編（2003）：「現代ポルトガル語辞典」、白水社
- 池田廉他編（1993）：「伊和中辞典」、小学館
- 桑名一博他編（1990）：「西和中辞典」、小学館
- 「講談社大百科事典」第6巻（1982）、講談社
- 小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編（1998）：「小学館ロベール仏和大辞典」、小学館
- 尚学図書編（1982）：「故事・俗信ことわざ辞典」、小学館
- 鈴木信太郎他著（1987）：「新スタンダード仏和辞典」、大修館書店
- 田辺貞之助編（1977）：「フランス故事ことわざ辞典」、白水社
- 田村毅他編（2005）：「ロワイヤル仏和中辞典」、旺文社
- 長野敦著（1984）：「ルーマニア語辞典」、大学書林
- 大宮真琴著（1994）：「ピアノの歴史」、音楽之友社
- 高橋浩子他著（2005）：「西洋音楽の歴史」、音楽之友社
- N. デュフルク著、遠山一行訳（1972）：「フランス音楽史」、白水社
- W. フィッシャー著、東川清一訳（1979）：「器楽の歴史 — その起源からバッハまで —」、アカデミア・ミュージック
- W. フィッシャー著、東川清一訳（1980）：「器楽の歴史 — バッハ以後 1880 年まで —」、アカデミア・ミュージック

